

小千谷市東大通商店街振興組合 ～地域住民との協働でまちづくり～

1. 全体要旨

アドバイスの流れ

- アドバイスのきっかけ…中越大震災で被災後、被害のあった商店街内の地元スーパーが郊外へ移転し集客の核を失う。打開策を模索するためアドバイザーに依頼。
- アドバイスの内容…住民の需要に基づいた施設整備のためには、商店街だけで議論するのではなく地域の諸団体を巻き込んだ組織づくりやニーズ調査、話し合いを基に計画策定することをアドバイスする。
- アドバイスの成果…商店街が地域活性化の担い手の要となり、商店街活性化にとどまらず住民協働のまちづくりにつながってきた。地区協議会の設立により県の施策支援の幅が広がり、空き店舗活用事業など含め継続的な活動として動き出した。
- ⇒「**商店街は地域活性化の要である**」アドバイスのメインテーマ

2. 事例先概要紹介

組合名：小千谷市東大通商店街振興組合（新潟県小千谷市）

組合員数：74名

組合の特徴：JR小千谷駅前の商店街として栄え、アーケード設置を機に法人化した。その後周辺道路や大型店開発などの環境変化により、駅乗降客や来街者は減少しているが、「おぢやまつり」や「パラソル市」等のイベントを地域協働で行い集客の努力をしてきた。

3. アドバイス依頼内容

1) 課題

要旨：郊外の大型店に囲まれて空洞化が進むJR小千谷駅前商店街内の空き地を活用してスーパーをつくる。

中越大震災で被害のあった地元スーパーが独自で再建するであろうと当商店街側は希望をもっていたが、その後郊外へ移転してしまい、駅前の集客の核となっていた店舗がなくなり、他にも被災し廃業した店舗もあり商店街の衰退が著しい。当商店街には最寄品を取扱う店舗がほとんどなく、近隣顧客の利便性を確保するためにもスーパーが必要であるとの判断に至った。

2) 背景

中心市街地活性化の勉強会に参加して高度化利用による活路を見出し、その後も勉強や検討を継続的するためにアドバイザー支援に至る。

当商店街は中心市街地活性化の勉強会で中小機構指導員から高度化活用の説明を聞き、「共同店舗やパティオ事業」等の高度化活用事例を学んだことで、空き地活用の可能性を見出した。しかし小千谷市には改正法による中心市街地活性化基本計画を策定しよう

小千谷市東大通商店街振興組合 ～地域住民との協働でまちづくり～



【地域の中の商店街として存在意義
を大きくした東大通商店街】

という機運はなかった。そのため当商店街では、自ら何か手をうたなくてはいけないという危機感が高まり、同様の課題を有する中央通商店街振興組合と共に地域活性化の検討を継続することとなった。

4. アドバイザーからの支援

要旨：商店街は地域の住民代表としてまちづくりをリードすべきであるという観点から、地域住民全体の意向を確認しながら住民運動にまで盛上げていくよう提案。
⇒住民の需要に基づいた施設整備のためには、地域の諸団体を巻き込んだ組織づくりやニーズ調査、話し合いを基に計画策定していく必要がある。

(1) 地域住民参加によるまちづくりの課題抽出と対応策の検証

アドバイザーは、商店街が地域住民の視点で住みよいまちづくりを考えることの重要性や高度化事業についても、単に商店街が行うハード整備事業として融資を受けるのではなく、地域住民を巻き込んだ計画づくりの必要性を説いた。

そのため、まず小千谷市東地区まちづくりについての議論を促進し、中心市街地活性化基本計画の必要項目に法り課題の整理を行い、2回目には、抽出された課題が小千谷市の基本計画や復興計画等に、どう対応策として盛り込まれているかを検証し、今後の可能性を共に探った。

(2) まちづくりに向けた組織づくりとニーズの調査

3回目以降には「東小千谷を住みよい街にするための住民アンケート」の実施のための支援を行った。その間に商店街ではいち早く「東小千谷夢あふれるまちづくり協議会」を立ち上げた。アンケートは、東夢協と東小千谷地区町内連絡協議会・東山地区町内連絡協議会・小千谷商工会議所の協力という形で実施され、その後、地域の11町会に協力を仰ぎ、改めて地域住民と共にまちづくりを議論する場として「東小千谷夢あふれるまちづくり活性化協議会」（略して東夢協）を再組織化した。その後もアンケート結果に基づき議論が重ねられ、アドバイザー支援のもと提言書として取りまとめられ、調査実施からわずか半年で、小千谷市並びに新潟県に対し「街づくり提言書」として要望が提出された。

その後も、東夢協は住民の意見を直接聞くワークショップ等を実施して、アドバイザーは総合的な助言を行った。

小千谷市東大通商店街振興組合 ～地域住民との協働でまちづくり～

平成19年10月に小千谷市長に提出した提言書の骨子

- (1) 提言書の構成 基本理念、地区設定、現状分析、提言
- (2) 提言内容
 - ①短期計画：住民生活利便支援の「市」的イベントの早期着手
 - ②中期計画：駅前空き地再開発等による生活利便とコミュニティに寄与する新商業集積建設
 - ③長期計画：街づくりを総合的に推進する中心市街地活性化への取組み等、東小千谷地区全体の活性化
 - ④推進体制：関係団体・関係機関等との連携・支援を受けつつ東小千谷住民全体が参画し推進

5. アドバイスの成果

要旨：地区協議会の設立により、地域が一体となった議論を重ねることができ、県からも多様な支援策が受けられるようになった。地域の需要が明確になり、課題抽出から改善のための事業や、その優先順位の検討の推進が進んだ。住民が地域活性化の担い手となり、住民協働の商店街活性化やまちづくりとしての具体的な運動につながってきた。

(1) 地域住民のまちづくりに対するニーズの明確化

アンケート調査の結果は、スーパーマーケットへの要望が地域の総意であることが明確となったと同時に、商店（街）として、地元住民の要望やライフスタイルを再確認し、それらに応える方法を具現化していくことが求められているということもわかった。

(2) まちづくりに向けた実行組織の構築

平成21年度からは、それまで検討された街づくり事業を実行に移すため、東夢協の下に審議会―運営委員会―実行委員会が組織され、実行段階に入った。実行委員会は具体的な活動実施のためのメンバー構成となっており、①食品委員会 ②児童福祉委員会 ③バス運行委員会 ④地域開発委員会の4つが設置されている。委員会毎に、短期・中期・長期の目標を打ち出し、達成にむけて小さくても着実に成果を残せるよう活動を続けている。

(3) 組合員の合意形成と円滑な組織運営

アドバイザー支援により、商店街の組合員が個々に主張していたことが毎回議論を重ねるごとに整理され、課題抽出や方向性の明確化ができた。また、具体的な改善策の提案や事例紹介等の支援を受け、東夢協の活動も活発になってきた。商店街内外における人間関係や利害関係等様々あるが、アドバイザーの適切な助言等の支援により円滑な組織活動となり、且つ継続的な活動につながっている。

小千谷市東大通商店街振興組合 ～地域住民との協働でまちづくり～

5. 今後の課題

要旨：

- 本来目的であった、商店街の集客の核となる施設の設置運営。
⇒地域住民の利便性や満足度の向上、長期目標の達成のためのアクションプラン推進
- 各個店の顧客満足度の向上
- 地域住民や行政、商工会議所などとの協働のさらなる推進
⇒空き店舗活用による協働事業等を通じ、既存店舗のマーケティング活動やコミュニティビジネスなどにつなぐ努力をする。

(1) 目標の達成

地域の総意として、共通の課題や目標がかなり明確になってきた。短期・中期・長期計画（高度化事業等）も明文化しており、小さくても着実な成果が望まれる。

(2) 野菜直売所・惣菜店の計画進捗

現在、実行委員会を中心に空き店舗を活用した野菜直売所や惣菜販売店を計画している。これについて今後計画を推進し、商店街のマーケティング活動やコミュニティビジネスの育成や受け入れなどに活用されることが期待される。

(3) 魅力ある個店の創出

環境変化が速い現在、ここまでの経緯を活かし今後はスピード感をもった、アクションプランが望まれる。そのためにも基礎となる商店街の各個店がそれぞれにお客様の満足度を向上させて生き残っていくことが重要だ。幸い商店街には、若手経営者の店舗も複数ある。

(4) 商店街区内の空き地の有効活用

一方周辺地区でもスーパーの進出や病院の移転などの検討進んでいることから、商店街内の空き地利用の具体案も商業施設のほかに、医療モールや子育て支援施設など、様々な意見が出されており、さらなる検討が必要となっている。

東夢協では平成 21 年度 11 月には小千谷市に対し都市マスタープランへの意見書を提出した。行政や商工会議所等とのさらなる協働促進も求められている。魅力ある商店街、住み続けたいまちの要として商店街の役割はますます重要となってきた。

小千谷市東大通商店街振興組合

所在地：新潟県小千谷市東栄 1-3-23

組合員：74 名

理事長：高野直人

組合連絡先：(0258) 82-2635

経緯等：昭和 40 年法人化片側式アーケードの設置

平成 7-8 年度アーケードリニューアル（いずれも高度化融資事業）平成 16 年中越大震災で被災。